

電子カルテに関するアンケート 2013 結果報告

新見 浩 司

医療におけるICT利用に関しては、近年の地域医療再生計画等により、「まず予算ありき」で、医療者側の意向や意見が十分に反映されないまま、行政や営利企業を巻き込んだ業界主導で進行していくケースも多く、たびたび問題になっています。診療情報の電子化及びネットワーク化については、開業医や総合病院など医療機関における情報化の方法や進捗の度合いにばらつきがあり、情報化の整備についての考え方も統一されていない側面が多数ある状況下にあると思われま

す。この度、兵庫県医師会医療情報・ICT化委員会では、兵庫県下の医療機関における電子カルテや院内情報化の導入実態を把握するため、会員医師を対象としたアンケート調査をおこないました。このアンケートは、ユーザーサイドの意見を集約し、より安全確実な利用で、業界主導で全てを決められることのないよう、医療側の共有資料とすることを目標としています。その結果についてご報告します。

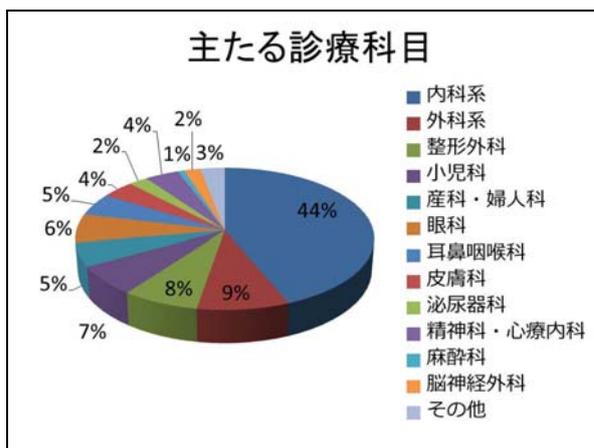
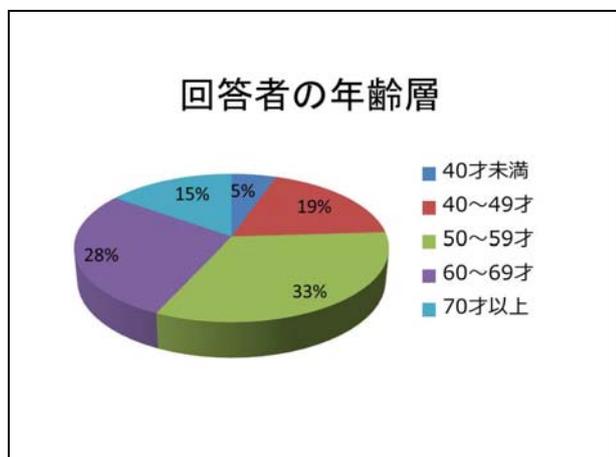
アンケート方法

- ・兵庫県下の全医療機関に対して、無記名でのアンケート回答を依頼
- ・設問項目は県医師会 医療情報 ICT 化委員会にて検討
- ・集計を効率的におこなうため、インターネットでのWEBアンケートシステムを利用（一部は紙記載の回答を各郡市区医師会で回収して代行でWEB入力）

WEBアンケートシステムにはLimeSurveyを使用しました。LimeSurveyの開発には6000名以上のプログラマーが携っており、自治体や企業でも盛んに利用されている世界的に有名なオープンソースの高機能WEBアンケートシステムです。アンケートの作成、公開、集計、解析の作業をWebブラウザ上で簡単に行うことができ、集計結果をリアルタイムに把握することができます。オープンソースなのでソフトウェア代も無料です。

回答者の構成

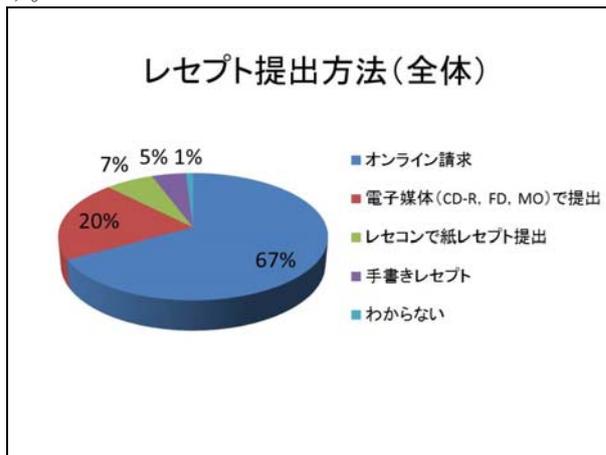
- ・アンケート回答数 1984件
(WEBでの回答940件、紙記載での回答1044件)
- ・会員種別 A会員81% B会員19%



「回答者の年齢層」および「主たる診療科目」の構成は、回答者の8割がA会員であったことから、A会員の実稼働数にほぼ近い構成かと思われま

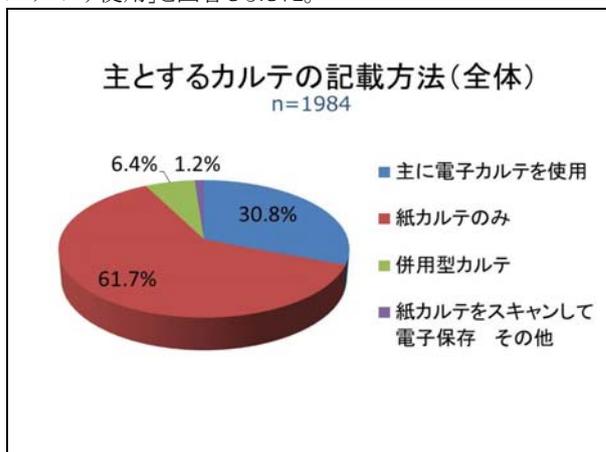
レセプト提出方法

「オンライン請求」もしくは「電子媒体による電子レセプト請求」をあわせると全体の87%でした。今回のアンケートは回答者数ベースなので、正確な比較はできませんが、平成24年10月の医科施設数ベースでの電子レセプト請求の全国平均が84.5%となっているため、概ね全国平均レベルかと思われま



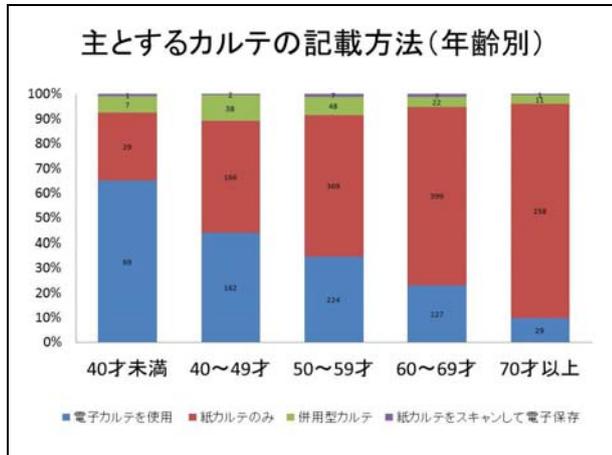
主とするカルテの記載方法

全体の約3割が主に電子カルテを使用、約1割が紙カルテと電子併用もしくは紙カルテの電子化保存、残りの6割が「紙カルテのみ使用」と回答しました。



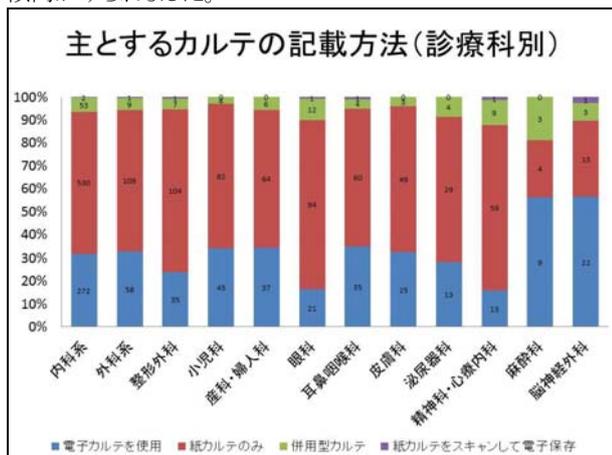
主とするカルテの記載方法(年齢別)

年代別にみると若い世代ほど電子カルテ導入率が高く、40才未満では6割以上が「主に電子カルテを使用」と回答しています。70才以上でも1割弱が「主に電子カルテを使用」と回答しました。



主とするカルテの記載方法(診療科別)

整形外科、眼科、精神科・心療内科でやや導入比率が低い傾向がみられました。



整形外科、眼科ではそれぞれ理学療法士、作業療法士、視能訓練士といったコメディカルが診療に関わる場面が多く、端末数が多く必要であったり、運用面で工夫が必要であったりすることが普及を妨げる要因になっていると推察されます。特に検査機器の多い眼科では、各機器の検査データの電子化や直接取り込みが困難であったり、できたとしても相当のコストがかかることなども要因になっているようです。

精神科・心療内科でも、患者の言葉をそのまま記述する部分が多いためキーボード入力では対応しにくいといった主旨の回答が多く、普及率があがらない要因となっているようです。

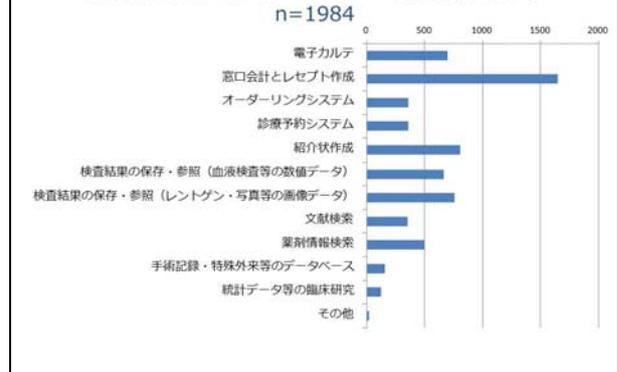
麻酔科、脳神経外科では普及率が高いですが、回答者の中でこれらの科目を主に標榜する医師の年齢層が比較的若かったことが影響しているかもしれません。

診療でのコンピューター利用

「窓口会計とレセプト作成」での使用率は高いが、「電子カルテ」「紹介状作成」「検査結果の保存・参照」に関しても、3割程度の回答者しか使っていないということが明らかになりました。

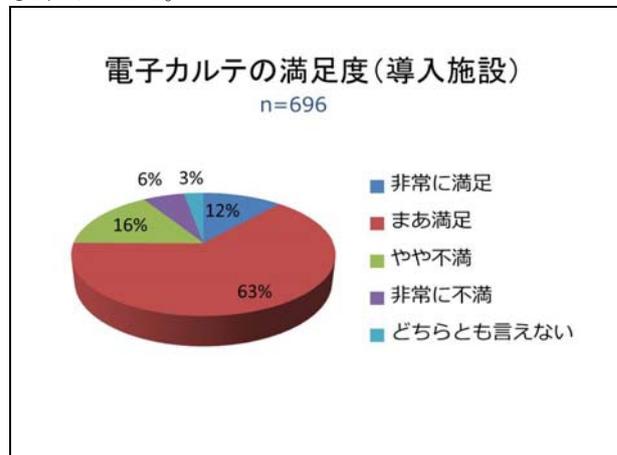
この数字はパソコンの世帯普及率が8割弱程度(2013年3月内閣府消費動向調査で78.0%)であることを考えると、診療の情報化はまだ道半ばにあるといえるかもしれません。

診療でのコンピューター利用(全体)

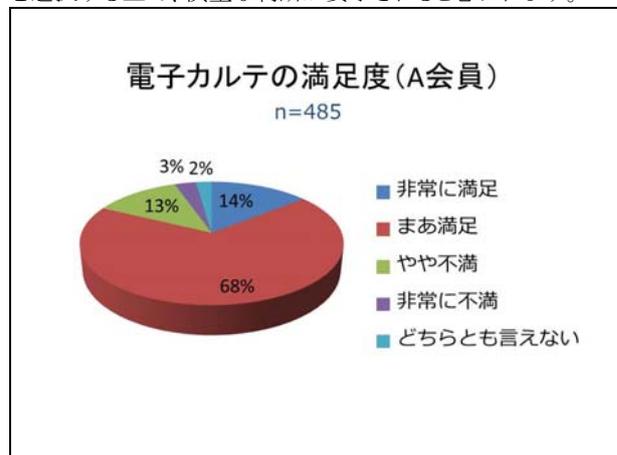


電子カルテ導入施設の満足度

電子カルテを導入した施設における満足度は、「非常に満足」と「まあ満足」があわせて75%と、比較的満足が高い回答が得られました。しかしながら、一方で「非常に不満」との回答も6%ありました。



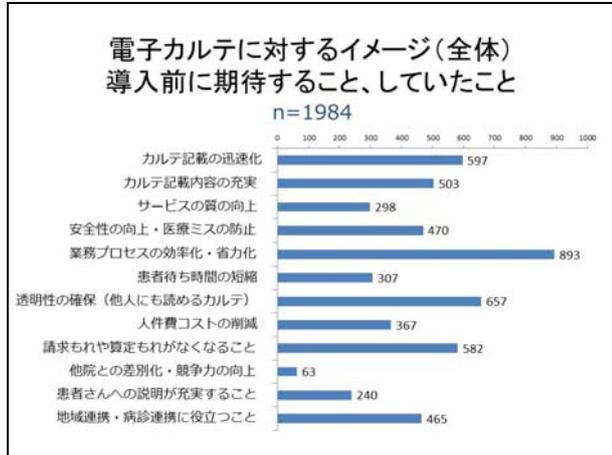
この回答をA会員のみ絞って抽出してみると、「非常に満足」と「まあ満足」があわせて82%と、さらに満足度が高くなる傾向がみられました。B会員の場合はほとんどが施設が選んだ電子カルテを使用することになりますが、A会員は概ね自分で導入するシステムを選別、決定しているはずですから、満足度が高くなったと思われます。しかし、それでも3%は「非常に不満」と回答しているため、導入に際しては自院にあったシステムを選択する上で、慎重な判断が要求されると思われます。



電子カルテ導入により期待できそうなこと

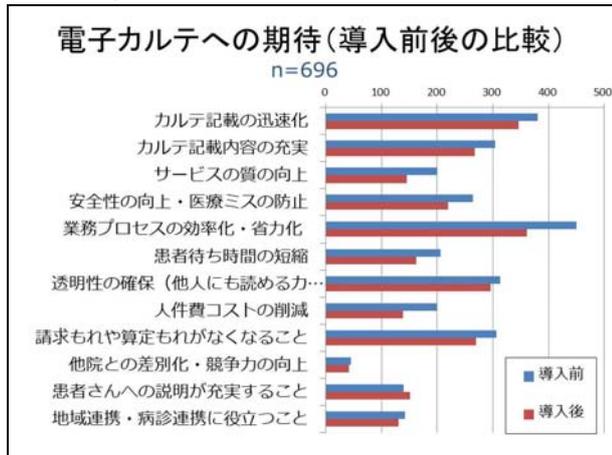
電子カルテの既導入、未導入にかかわらず、回答者全体でみると、「業務プロセスの効率化・省力化」には半数近い人が期待していますが、その他の項目では意見がわかれて、ほとんどの項目で概ね2～3割どまりとなりました。

特に「他院との差別化・競争力の向上」に期待できないと大多数の人が考えているようです。



電子カルテ導入後の効果

前述の項目を電子カルテ導入施設のものに絞って、導入前後で比較してみると、ほとんどの項目で、導入前の期待をやや下回る結果になったものの、各項目で7～9割以上のポイントを得ていました。



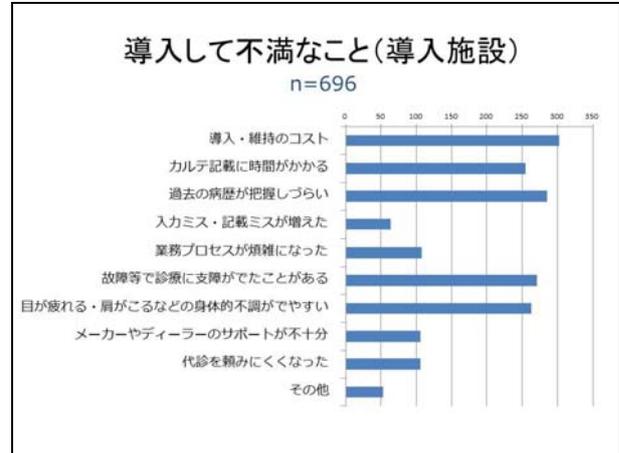
「その他」の内容としては

- ・慣れると診療が早くなった。もはや紙カルテには戻れない。
 - ・カルテの保管、出し入れの便利は、かなり重宝。
 - ・医療情報の共有化、標準化、チーム医療、安全管理などのためには必須。
 - ・カルテ庫がいらない。
 - ・検査中のカルテ紛失がない。
 - ・汚い字を書かなくてよい。みんなが読める。
 - ・今や必須のもので、紙カルテの発想が全くない。原稿用紙にペンで作文するのと、PCで文章を書くとの違い。
 - ・ずっと紙カルテでやってきたが、一度電子カルテに慣れるともう紙カルテには戻れない。コンピュータや携帯等がいつのまにか必需品になってしまっているのと同じである。
 - ・一度電子カルテに慣れると、当直等で他院に行ったときに、紙カルテの字が書けなくなっている事に気づいて愕然とした。
- といった回答がよせられました。

電子カルテを導入して不満なこと

約4割の人が「導入・維持のコスト」「カルテ記載に時間がかかる」「過去の病歴を把握しにくい」「故障等で診療に支障がでたことがある」「目が疲れる、肩がこるなどの身体的不調がやすい」と回答しました。

先の質問項目で、電子カルテ導入により「カルテ記載の迅速化をはかれた」との回答が約5割ありましたが、約4割は「カルテ記載に時間がかかる」と回答していることとなります。

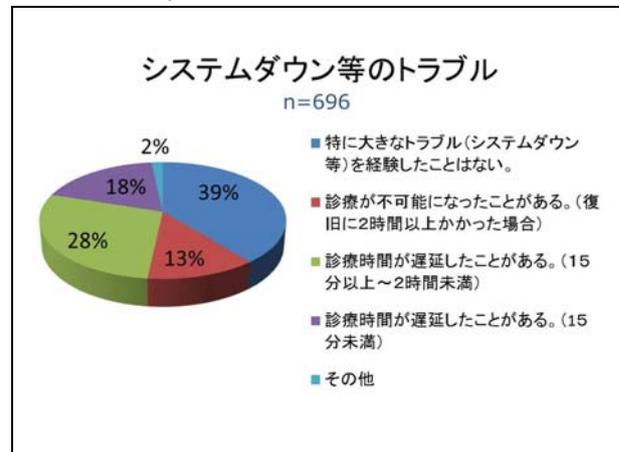


「その他」の内容としては

- ・電子カルテに慣れるまで非常に煩雑。
 - ・医師の仕事が増える。事務員は少なくてすむ。
 - ・記載に時間を要する。
 - ・過去カルテを見るのに時間がかかる。
 - ・図、絵等の記載はやや不自由
 - ・スタッフ教育に苦労する
 - ・導入初期がづらい(慣れるまで)
 - ・コピペばかりの味も素っ気もないカルテ
 - ・融通が利かないのでかえって面倒
 - ・自分に合ったように最適化すればするほど、他人が使い難いシステムになってしまった
 - ・メーカーに苦情を言っても相手にされない。
 - ・メーカーが不満に対応してくれない。
- といった回答がよせられました。

システムダウン等のトラブル

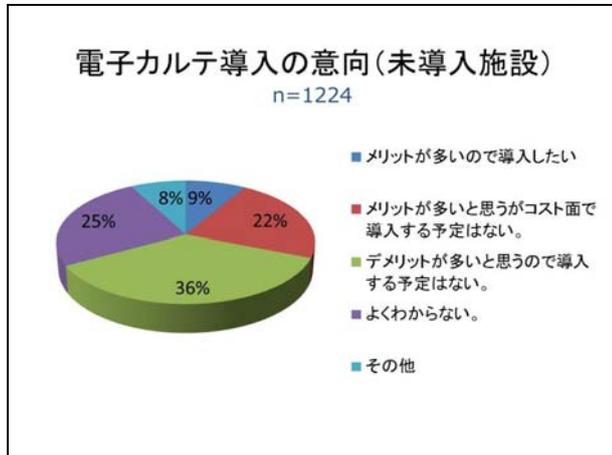
大きなトラブルを経験したことがないという回答が39%で、59%が何らかのトラブルにより、「診療が遅延すること」を経験していました。「復旧に2時間以上かかり、診療ができなくなった」のが13%もあるということは大きな問題点として特筆すべき点かと思われます。



未導入施設の意向

電子カルテを使っていない回答者のみに絞って、今後に電子カルテ導入を考えているかを調べたところ、31%が導入によるメリットが多いと考えているということが判明しました。ただし、導入によるメリットが多いと考えている回答者のうち、3分の2がコスト面で導入する予定はないと回答しています。

一方、デメリットが多いと考えている回答者は36%、メリットがあるかどうかよくわからないという回答者も25%ありました。



未導入施設の回答者の電子カルテに関する意見としては

- ・慣れるまで入力に時間がかかりそう。
- ・診察より入力に時間をかけてしまうという懸念がある。
- ・患者と話す時間が制限されるのを危惧する。
- ・患者さんから、ディスプレイばかり見て患者さんの顔を見られないとの不満の声を良く聞く。
- ・紙カルテで十分です。電子カルテのメリットがあまり理解できない。電子カルテ導入を強制しないでほしい。
- ・高額で機器の定期的更新が必要なことが問題。
- ・停電時にどうするのか、データが消えたらどうするのかも心配。
- ・時代の流れから導入すべきとは考えるが、現時点では、コストの面で難しい。
- ・医療業務ででた利益を医療機関から業者に誘導するための一つの道具。
- ・5~7年ごとにハードやシステムを更新しなければならない。単にIT企業やメーカーを生き残らせるためだけの策
- ・電子カルテのメリットがわからない。厚生労働省の管理医療に毒されているのではないのでしょうか
- ・紙カルテの方が微妙なニュアンスを表現しやすい。
- ・紙カルテもそれなりに便利である。

といった回答がよせられました。

まとめと考察

アンケート回答者1984名のうち、38%が「主に電子カルテを使用」と回答しました。若い年齢層ほど使用率が高く、40才未満では6割以上が電子カルテを使用と回答しており、近年は新規開業で最初から電子カルテを導入する事例が多いことから、今後さらに普及率が高まると予想されます。

電子カルテ使用者の実態としては、75%が導入に概ね満足している一方で、6%が非常に強い不満をもっており、有効活用できている施設もあれば、そうでない施設が一定数あることが明らかになりました。

例えば電子カルテ使用者のうち、5割が「カルテ記載の迅速化」をメリットとしてあげていますが、4割弱は「カルテ記載に時間がかかる」と回答しています。診療科の特性、各個人の適性、慣れの要素によって、違ってくる部分もあるようですし、製品の機能や性能でも違いがでてくるようです。さらに電子カルテの

環境設定(医学用語変換辞書、セット登録等)の仕方によってもかなり大きな違いがでてくるようで、電子カルテを導入する際には、自院に適した機能が搭載されているものを選択し、効率よく診療をおこなうための環境設定が重要であるという主旨の回答も多くみられました。

「過去の病歴が把握しにくい」という回答も4割程度みられましたが、この点に関しても製品の機能によっては表示方法や数値データのグラフ化などで経時変化を把握するのに紙カルテより優れているとする回答もあり、修飾語や記号などの記載方法の工夫によっても改善できるという回答もみられました。

また、紙カルテであっても、電子カルテであっても、サブシステムとして画像や検査データの電子ファイリングシステムを有効活用しているという回答も多く、こういったシステムを活用するスタイルをとることも情報化によるメリットを享受する有効な手段になり得ることを示唆していると思われます。

「目が疲れる・肩がこる」といった身体的不調が「やすい」という回答も約4割ありましたが、これに関してもパソコンでの文章作成と同様に使っているうちに徐々に慣れてくるという回答が多くみられました。

「微妙なニュアンスを表現しにくい」という意見もありますが、スケッチ機能が充実している製品や、2号用紙スタイルで手書きの注記や所見記載が可能な製品などでこの点を克服できているものもあり、そういった製品を採用することも選択肢になり得ると思われました。

また、不具合として59%が診療が遅延するトラブルを経験しており、13%が「2時間以上診療ができなかった」ということは、医療そのものに対する信頼や、経営面においても非常に大きなリスクを持っていることを示しており、データのバックアップはもちろん、不測のシステムダウン等の際にも円滑に対処できる対策を十分に施しておくことが、重要かと思われま

す。例えば、その対策の一例としてシステムダウン時の予備端末(ノートPC)で過去カルテを参照できるようにPDFファイルを外部メディアに常時自動出力するように設定し、さらにシステムダウン時に備えて「いったん紙に記載して手計算で会計ができる訓練」を事前に行っておいたことで、システムダウンが起きたときも、ほぼ滞りなく診療でき、システム復帰後に紙に記載したものを後で入力することで対処できたという事例も回答されていました。

電子カルテの機能アップに関しては、メーカーやディーラーに苦情や要望をあげても、なかなか意見が製品に反映されないと嘆いている声も比較的多くみられました。一方でユーザーの意見を積極的に取り入れて、バージョンアップを繰り返している製品も少なくありませんが、その変更が毎回必ずしも万人受けするとは限らず、時には元の方がよかったという意見もでたりすることもあり、すべての人が満足するものを作っていく難しさを改めて考えさせられる回答もありました。

「導入・維持のコスト」の問題は電子カルテ使用者でも不満と答えた人が最も多かった項目であり、未導入施設でも31%の人が「導入のメリットがある」と考えているにもかかわらず、その3分の2にあたる22%が「コスト面で導入する予定はない」と回答しています。

良質で低価格な製品の登場を待ち望む声は多く、「ORCAと同様に医師会が主導して、安価で自由にカスタマイズ可能な電子カルテを作って欲しい」という意見が数多くみられました。

今回のアンケートでは、電子カルテの導入で多くのメリットを享受できている施設がある反面、そうでない施設もあり、電子カルテを有効に活用するためには自院への適性や導入目的をよく見極め、導入する場合には、ニーズにあった適切な製品を選択する必要があること、そして導入・維持のコストがより安価な製品が求められていることが、あらためて浮き彫りになったと思われま

最後に

電子カルテが登場した黎明期には、医療者側もメーカー側も、どのような機能が必要で、どのようにすると使いやすいか手探り状態からスタートしたため、双方が大きな苦勞をしてきました。近年になって、ようやく満足度の高い製品もいくつか登場してきていますが、「できた諸問題を集積して、それを元に次世代の製品開発、あるいは医療政策に活かしていく」という流れは今後も不可欠と考えられます。

アンケートに際して、医師会への要望も数多くいただきましたので、それらを参考に兵庫県医師会医療情報・ICT委員会としても、引き続き情報収集に努めながら会員の皆さまの声を今後の医療政策や情報化の発展に活かしていただけるように、情報発信していければと存じますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回アンケートにご協力いただきました兵庫県医師会の会員の皆さま、WEBアンケートシステムの構築及びデータ入力にご協力いただきました安慶名正樹さまをはじめとする兵庫県医師会事務局の皆さま、各郡市区医師会事務局の皆さまにも、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。